

主体的な遊びを育む園庭へ

素材の導入・実践・可能性考える

国際校庭園庭 研究実践セミナー(2)から 連合日本支部

本年度「子どもの主体的な遊びを育む園庭環境づくりとルースパーツ(素材)の導入・実践・可能性を考える」をテーマに、3回の園庭研究実践セミナーを開催する国際校庭園庭連合日本支部(代表11仙田考・田園調布学園大学准教授)。その2回目として4日、豊かな里山環境のある東京都八王子市の(株)東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園(内野彰裕園長、園児250人)の園庭・園舎を見学するとともに、同園の子どもの園庭での外遊びと環境の在り方、特に園庭環境づくりとルースパーツ(素材)の導入・実践について学んだ。

自然物使う豊かさ確認

国際校庭園庭連合日本支部ではこれまで、子どもたちの主体的な遊び・学びを体験することができた。周年記念全国大会、昨年「これは面白い」と感じ、秋と今年春の「全国都市緑

化かわさきフェア」で箱庭ブースを設け、自然物を使って遊びの要素をつくるワークショップを開催。子どもから大人まで多くの人が参加し、好評を得た。こうした取り組みによって、自然物で遊ぶことの豊かさや確認された。同時に、こうした素材を使った遊びは園の現場でもいろいろな可能性があるのでないかと考えた。こうしたことから、本年度は「子どもの主体的な遊びを育む園庭環境づくりとルースパーツの導入・実践・可能性」をテーマとした。

切にできた東京ゆりかご幼稚園。子どもたちは隣接する広大な森と行き来しながら、豊かな遊びを展開している。

隣接する森には 多様な生態系

「棚田(田んぼと畑)」「冒険の丘(山遊び)」「小川・池」「草はら」「森のひろば」の五つの自然体験ゾーンで構成される園庭は、ありのままの自然と本物の命に触れることを体験できるダイナミックな里山。こうした経験が子どもたちの「原体験」となり、好奇心や想像力、考える力、心の安らぎなどを支える土台となる。

稲わらや丸太 篠竹で基地作り

例えば、子どもたちが取り組む基地作りも、さまざまな自然素材を使って進められる。稲わらを使って壁作りをした子どもたちは基地を作りたいと考え、丸太や篠竹(シンダケ)を使って建物を作る。麻ひもを使って篠竹を結ぶ経験をした子どもたちは、細い木の枝などでも矢を作って狩りごっこをしたり、さまざまな自然物を使って装飾作りをしたりしていく。

子どもにとって最も身近な自然環境である園庭の充実を図り、日々の遊びを大

園庭には約2千本の木が育ち、隣接する「七国・相原特別緑地保全地区」の森には、希少な植物・動物をはじめとする

国際会議での 展示に発表され

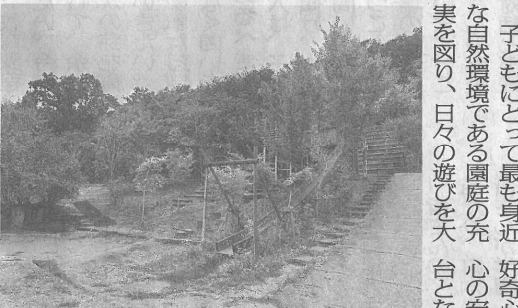
同支部がルースパーツに注目したきっかけは、仙田代表ら関係者が令和5年7月にブラジルで開催された回連合の国際会議に参加したこと。そこに自然環境づくりのデモンストレーションを目的とした箱庭ブースが設けられており、大会参

東京ゆりかご幼稚園(東京都八王子市)の実践

棚田など五つの体験ゾーン



「鉄腕クラブ」の活動として行った
稲刈りの様子



大きな坂を上り下りできる「冒険の丘(山遊び)」。

「棚田(田んぼと畑)」はイネや野菜を育てる栽培エリアというだけでなく、凹凸や回遊性がある「変化に富んだ地形」が子どもたちの好きな遊具となっている。見せたり、興味深く見つめたりしていた。

多様な生態系が維持されている。四季折々の自然がもたらす豊かな教育資源が、子どもたちのお気に入りの遊具ルースパーツとなっている。

出合つこともでき、遊びと栽培活動が共存するエリアとなっている。他にも、大きな坂を上り下りできる「冒険の丘(山遊び)」は、そりや段ボールを使えば変換可能な自然の滑り台になり、「森のひろば」では自然物を使った森の遊びが存分に楽しめる。保護者への保育の見え方や理解促進は、保育・環境整備への参加を通して行っている。活動に賛同する園児・卒業生・保護者が参加する「鉄腕クラブ」は月1回、土曜日に遊具作りや里山整備、田んぼの取り組みなどを行う。

4日には、棚田の稲刈りを実施。参加した園児・卒業生・保護者が一緒にノコギリ鎌を使って稲を刈り、わらひもでしばり、乾燥させるためのさおにける作業に取り組んだ。その中で、子どもたちはさまざまな虫を見つけ、保護者や友達に